

2020年10月26日

第59回研究発表会若手優秀発表賞の受賞について

(公社)日本地すべり学会 第59回研究発表会及び現地見学会実行委員会
事業計画部

日本地すべり学会は若手会員の研究奨励の一環として、研究発表会において優れた発表を行った若手会員に対し「若手優秀発表賞」を授与しています。第59回研究発表会においては、下記の若手会員が「若手優秀発表賞」受賞者として選出されました。受賞者には、実行委員会から表彰状と副賞が授与されます。また、受賞者は日本地すべり学会誌に研究成果を投稿した場合、優遇措置*を受けることができます。

若手優秀発表賞受賞者(50音順)

○稲垣翔(信州大学)

演題:火山地域で発生した大規模地震後の時間経過が崩壊発生限界雨量に及ぼす影響
連名者:平松晋也

○大澤光(筑波大学)

演題:地すべり地における多雪年と少雪年の間隙水圧応答の比較
連名者:岡本隆、松浦純生、平島寛行

○奥山遼佑(株式会社建設技術研究所)

演題:土石流と共に流下する流木の流下過程に関する水理模型実験
連名者:村上正人、飯田弘和、高橋佑弥、浅野志穂、鈴木拓郎、経隆悠

○神野郁美(国土防災技術株式会社)

演題:長野県長久保地すべりの硬質炭酸カルシウムスケールの観察
連名者:佐藤翔太、山田泰弘、柴崎達也

○酒井宏豪(群馬大学)

演題:FEMに基づく中山間地の広域的な地震応答解析の更なる効率化のための検討
連名者:若井明彦

○高橋康平(国土防災技術株式会社)

演題:New-SlopeRBSM3Dによる銅山川地すべりの移動方向解析

連名者: 濱崎英作、渡邊修、山科真一、西尾克人

○高木将行(国立研究開発法人土木研究所)

演 題: 大変位対応型孔内傾斜計 ~ 新たな孔内傾斜計の開発 ~

連名者: 杉本宏之、荘司泰敬、中村友計、須賀原慶久、古島広明

○張朝(国土防災技術株式会社)

演 題: AHP を用いた山梨県南西部春木川左岸流域における土砂生産ポテンシャルの評価

連名者: 佐藤剛、檜垣大助、後藤聡、北爪貴史

○野口絹子(前: 弘前大学、現: 北海道大学)

演 題: 樹木年輪年代学的手法による地すべり変動履歴の検討: 白神山地大川流域における地すべり地を対象として

連名者: 鄒青穎、石川幸男

○松永隆正(北海道大学)

演 題: 平成 29 年 5 月長野県飯山市井出川流域での融雪を起因とした土砂災害に対する警戒避難基準の検討

連名者: 桂真也

選考方法

審査・表彰の対象者は、申込時に 35 歳以下の正会員・学生会員の発表者で、かつ選考を希望する者としている。今大会では会場での発表会が開催されなかったため、講演要旨を対象とした審査(一次審査)とオンラインでの口頭発表を対象にした審査(二次審査)で行った。また、これまで若手優秀発表賞を受けたことのある会員は受賞候補から外すことにしていたが、今回は特例として候補に含めることとした。なお、審査対象となった会員は 30 名である。

一次審査では審査対象の講演要旨 1 編につき 4 名の審査員が、「研究内容」、「研究レベル」、「原稿の完成度」の各項目について 5 段階で評価した。その結果をもとに、大会実行委員長・副委員長が、評価点上位 10 名の会員を二次審査対象者に選出した。二次審査では、審査対象者 1 名の口頭発表および質疑応答につき 3 名の審査員が、「研究に対する理解度」、「貢献度」の各項目について 5 段階で評価した。これらの結果をもとに、大会実行委員長・副委員長が表彰対象者を最終的に決定した。

審査員は、大会実行委員長により以下の方々任命された。審査にあたっては、審査員と発表者・所属機関および連名発表者との関係に留意し、厳正な審査が行われるよう配慮した。

審査員(敬称略、50 音順)

浅野志穂、稲葉一成、井上宏、岩佐卓実、上野雄一、大村泰、楠本岳志、小林豊、後藤聡、櫻井

正明、佐藤浩、佐藤威臣、佐藤剛、相楽渉、竹下航、土志田正二、沼宮内信、村上亘、茂木俊、若井明彦

* 学会誌投稿優遇措置

受賞者が筆頭著者として、受賞した発表に関連する内容の原稿(原稿区分は問わない)を日本地すべり学会誌に投稿する場合、その費用が免除される(ただし、カラーページ費用、超過ページ費用、別刷費用は免除対象に含まない)。優遇措置を受けられる期間は受賞から3年間である。受賞者にはこれを機に研究成果の投稿をお願いしたい。

以上